様式第１号（第１０条関係）

2023 年度業務実績報告書

提出日 2024 年 1 月 18 日

１．職名・氏名　教授・平井　一芳

２．学位　博士（医学）、専門分野　公衆衛生学、授与機関　福井大学、授与年　2006 年 6 月

３．教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
①　担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 臨床栄養学・生化学（1 単位）2 年生　オムニバス講義
②内容・ねらい 食物の摂取から消化、吸収、体内での代謝にいたる栄養学の生理・生化学的な基礎について説明する。そのうえで、生活習慣病予防・改善のための食生活および高齢者や病気に罹患した患者の臨床栄養管理について理解し説明できるよう促す。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 対面講義、Zoom によるオンラン講義を併用し講義を行なった。パワーポイントを用いてスライドに写真や図を盛り込んだり、動画を利用したりして複雑な体内代謝や具体的な臨床栄養（栄養管理法や食事療法，非経口栄養法など）について、できるだけ解りやすく解説した。また、GC、LMS の活用やラインアプリを利用して学生と双方で迅速に連絡しコミュニケーションを図った。講義内容についての質問などは丁寧に講義にて解説しながら解答し理解の補完に努めた。
①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 産業保健論（1 単位）3 年生　オムニバス講義
②内容・ねらい 産業保健の歴史と現状および労働衛生管理について概説し、働く人を対象とする、産業保健師の役割を示す。事業所や労働衛生機関などの産業現場における産業保健師の活動と、事業主や従事者との関わりについて説明する。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 対面講義、Zoom によるオンラン講義を併用し講義を行なった。産業保健師の活動について、さまざまな現場での具体的事例や近年の身近なトピックなどを取り上げるなどして産業保健についての関心を喚起した。また、GC、LMS の活用やラインアプリを利用して学生と双方で迅速に連絡しコミュニケーションを図った。講義内容についての質問などは丁寧に講義にて解説しながら解答し理解の補完に努めた。
①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 公衆衛生学（2 単位）1 年生
②内容・ねらい 物理・化学・生物学的環境および社会環境の健康への影響について概説する。疾病予防、健康保持・増進、健康寿命の延伸を目指した組織だった社会を通じた保健活動や個人、家族さらには地域、国レベルまでのさまざまな健康支援の在り方について説明する。ライフステージおよび地域、学校、職域といった生活の場で行われている公衆衛生活動について説明する。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
対面講義、Zoom によるオンラン講義を併用し講義を行なった。公衆衛生活動の意義と社会・経済・行政との関りについて資料や新聞記事等から、特に身近な福井県の話題を多く取り上げるなどして具体的関心を喚起する。内外の公衆衛生活動について具体的事例を提示し、グローバルな視点で現状や課題についても理解を深め、公衆衛生マインドの涵養を促した。また、GC、LMS の活用やラインアプリを利用して学生と双方で迅速に連絡しコミュニケーションを図った。講義内容についての質問などは丁寧に講義にて解説しながら解答し理解の補完に努めた。

①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
疫学（2 単位）2 年生

②内容・ねらい
将来の保健師、看護師としての実践活動、教育研究活動の場面で健康事象（疾病など）と、それらの関連要因を明らかにするために疫学の基礎を解説する。疫学的な考え方を涵養する。科学的方法論としての疫学の概念・方法を説明し、疫学により示される科学的エビデンスや研究方法論を看護や保健活動の場に活かす可能性について理解を促す。様々な疫学研究方法の特徴を解説する。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
対面講義、Zoom によるオンラン講義を併用し講義を行なった。集団の健康状態を把握することの重要性と疫学で用いられる基本的な指標の理解を促した。演習として計算問題を盛り込み理解を補完した。また、GC、LMS の活用やラインアプリを利用して学生と双方で迅速に連絡しコミュニケーションを図った。講義内容についての質問などは丁寧に講義にて解説や解答し理解の補完に努めた。

①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
保健統計学（2 単位）2 年生

②内容・ねらい
集団における健康科学の方法論について概説する。科学論の基礎、確率、統計、疫学、人口統計について説明し、記述統計、統計的推論の手法を解説する。人口・疾病統計や臨床研究など、看護や保健活動の場でどうのように活かすかを教授する。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
対面講義、Zoom によるオンラン講義を併用し講義を行なった。集団の健康状態を把握することの重要性と保健統計で用いられる基本的な指標の理解を促し、保健統計データをどうのように活かすかを教授した。また、GC、LMS の活用やラインアプリを利用して学生と双方で迅速に連絡しコミュニケーションを図った。講義内容についての質問などは丁寧に講義にて解説や解答し理解の補完に努めた。

①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
教養特講 D：福井を学ぶ（2 単位）1~3 年生 オムニバス講義

②内容・ねらい
福井県立大学で学び始めた新入生が、福井という地域の特性について幅広く学べるよう、福井が有する多様な資源を世界的な視点のなかに位置づけ、地域における大学が果たす役割を理解させる。自らが位置する福井という地域の基本的知識を習得させ、地域に関連した研究関心の基盤を形成させるとともに、グローバル化した多様な価値を適切に評価しうる自己の立脚点を確立させる。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
Zoom によるオンラン講義を併用して講義を行なった。
「福井県の健康長寿」をテーマに取り上げ、福井の特性（県民性、社会性など）の理解を促し、自らの属する地域社会と県民の健康について涵養できることを目指した。また、出席、レポート課題などは、GC を活用して迅速的確に行った。

①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
看護マネジメント学演習（2 単位）　大学院 1 年生　オムニバス講義

②内容・ねらい
看護マネジメント学研究方法に対する理解を深め、論理的思考能力を養う。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
研究が臨床の場や地域のニーズに合った問題と文献を基に、自己の研究テーマおよび研究方法を明確化し、研究計画書作成とプレゼンテーションができるようサポートした。

①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
看護マネジメント学特別研究（10 単位）　大学院 2 年生　オムニバス講義

②内容・ねらい
研究課題、研究の背景、研究の意義、研究目的、方法を明確にし、研究計画書を完成する。
データ収集、解析に必要な統計手法を理解し実施する。
修士論文を作成する。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
研究遂行において自主性を尊重しサポートした。情報・統計リテラシーの理解を促した。

①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
健康福祉学特論（2 単位）　大学院 2 年生　オムニバス講義

②内容・ねらい
健康福祉に関連する複雑多岐な課題について理論的・実践的側面から理解し、社会全体の Well-being の向上に向けた総合的なアプローチ方法を習得する。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
公衆衛生学の視点から健康福祉に関連する多様な課題、とくにフレイル・生活習慣病に対する社会全体のWell-being の向上に向けた総合的なアプローチ方法の教授に努めた。

①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等
保健医療福祉演習（4 単位）　大学院 1 年生　オムニバス講義

②内容・ねらい
自らの研究課題と関連させながら、保健医療福祉の課題解決に関する論文の抄読、ディスカッションを通じて解決方法について理解する。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫
公衆衛生の立場からみた少子高齢化、ヘルスケアニーズの複雑化・多様化の現状と課題と解決方法／論文の抄読、ディスカッションを行った。

①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 健康生活探究特別研究（6 単位）　大学院 1 年生　オムニバス講義
②内容・ねらい ・研究課題、研究目的・方法を明確化し研究計画書を完成、倫理審査申請書類を作成する。 ・研究に必要な倫理的配慮を実施する。 ・データ収集・分析に必要な手法を理解し実施する。 ・博士論文を作成する。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 自己の研究課題に関連する先行研究の内容の概説、研究課題、研究目的・方法を明確化して研究計画書を作成することに留意した。

４．研究業績

(1)研究業績の公表

①著書

【　本】

②学術論文（査読あり）

Benefits of an accelerated climatotherapy programme for busy people:comparisons according to area and season:Hitomi Kanayama,Yukinori Kusaka,Hiroyuki Inoue, Takayoshi Hirai,Yuko Agishi,Angela Schuh.International Journal of Biometeorology, D-22-00341R1.2023.12

【1 本】

③その他論文（査読なし）

【　本】

④学会発表等

（ポスター発表）

1.地域のソーシャルサポートとフレイル及びその要因（生活活動、うつ、睡眠）との関係,
第 82 回日本公衆衛生学会総会（2023 年 10 月：つくば）,共同報告者無

（口頭発表）

2.コロナ禍に入職した新人看護師の ストレス対処力とリアリティショックとの関連,
第 27 回日本看護管理学会学術集会（2023 年 8 月：東京）,野田恵,笠井恭子,平井一芳

【2 件】

⑤その他の公表実績

【　本】

(2)科研費等の競争的資金獲得実績

【学外】

文部省科学研究費補助金　基盤研究（C）研究代表者

【学内】

看護福祉学部〔KF 枠研究費〕研究代表者

(3)特許等取得

(4)学会活動等

【学会活動】

日本衛生学会，日本産業衛生学会，日本公衆衛生学会，運動疫学会，日本体力医学会，
日本産業衛生学会北陸甲信越地方会，北陸公衆衛生学会，
日本体力医学会北陸地方会（副理事長）

【研究会活動】

福井スポーツ健康科学研究会
福井体育研究会

５．地域・社会貢献活動

①国・地方公共団体等の委員会・審議会
福井県健康づくり推進協議会（健康運動分野に関する委員，2002 年～現在に至る）
福井県スポーツ推進審議会（健康運動分野に関する委員，2004 年～現在に至る）
福井県健康管理協会評議員会評議（健康運動分野に関する委員，2006 年～現在に至る）
すこやか長寿センター運営委員会（健康運動分野に関する委員，2016 年～現在に至る）
福井市建築審査会（公衆衛生学分野に関する委員，2018 年～現在に至る）
福井県済生会病院 地域医療連携運営委員会（公衆衛生学分野に関する委員， 2021 年～現在に至る）
福井県国民健康保険団体連合会 保健事業支援・評価委員(2022 年～現在に至る）

②国・地方公共団体等の調査受託等
該当なし

③（公益性の強い）NPO･NGO 法人への参加
NPO 法人日本健康運動指導士会：福井県支部長（単位認定健康運動指導士研修会開催， 自治体主催の健康づくり事業に参画， 自治体等の依頼を受け健康運動指導士の派遣等， 1998 年～現在に至る）

④（兼業規程で業務と見なされる範囲内での）企業等での活動
三崎医院（福井市；患者への運動処方，カウンセリングおよび運動指導を週 1 回，2003 年～現在に至る）
⑤大学間あるいは大学と他の公共性の強い団体との共催事業等
福井大学医学部（協力研究員，2013 年～現在に至る）

６．大学運営への参画

(1)補職
(2)委員会・チーム活動
入試制度検討委員会（2018 年～現在に至る，2023. 副委員長）
(3)学内行事への参加
1 日看護大学生体験（2023 年 8 月） 講義：「人類の危機を救ってきた「公衆衛生」その扉を開いてみましょう！」
(4)その他、自発的活動など